



母親の中には、夕方早く帰宅し、日曜日はいうまでもなく平日でも、子供とよく遊んでくれる父親がいます。自分思っている人がいます。自分たちの子供だから、育児は二人の親が平等に時間を割くべきだと主張する人もいます。

このようなことを聞くと、子供が好きなのに、事に追われて自宅にいる時間が少ない父親は悲しくなります。なかには罪悪感にとらわれる人もいます。

男性の生涯で三十代・四十代というのは最も活力にあふれた充実した時期です。仕事の上でも重要な役割を果たすようになり、仕事そのもの生きがいを見いだすようにも

なります。この年代のときに

毎晩六時過ぎには帰宅している父親よりも、ときには深夜になってからでないと帰ってこない父親の方が、職業をもつ男性としては頼もしく、また発展性があるのではないかと

思います。いつも残業をしているわけではありませぬ。親しい仲間と飲んだり遊んだり

多忙な父親

たくま 武俊

していることもありませぬ。異論があるかもしれませぬが、壮年期の男性にはこのような時間が必要だと私は思います。

この父親が子供のことを全く無関心であるなら、多忙だというのは逃げ口上です。しかし、早く帰宅をして子供の顔が見たいのにそれができないことがあります。父と子供

の接触は量よりも質が大事です。いつも自宅にいるが不機嫌な父親よりも、たまにしかないがそのときは好機嫌な父親の方がよほどいい影響を子供に与えます。平日が多忙な父親は休日に十分子供と遊んでください。

子供は自分の父についてある印象をつくり、こんな人と思っけています。これは父から直接得た印象だけでなく、父の不在の折に母親が子供に夫のことをどう話すかによって、著しく左右されます。自分の夫のことを子供に悪く言う母親のもとでいい家庭教育を期待するのは難しいことなのです。

(東京都立大学教授)



言葉の履歴書

焼きが回る

「ちよつとたるんでるから、焼きを入れてやるろう」とか、「こんなへマをやるようじゃ、ヤツも焼きが回ったな」などというときの「焼き」は、いずれも刀剣用語からきた言葉です。

刀を打つとき、耐火性粘土を塗った刀身を炉に入れ、ミカン色に赤く焼けたころあいを見計らって、ぬるい水の中へサツと入れます。そのとき、粘土を薄く塗った切先の部分は急激に冷えて、堅い組織に変わるわけです。これが「焼き入れ」で、微

忘れられた

郵便貯金通帳はありますか……



と、貯金の預け主の権利がなくなりませぬか……

長い間お金の出し入れがない古い郵便貯金通帳……残高も少ないからと、たんすの中にしまったままになっている……そんなことはありませぬか。

郵便貯金は、預け入れや払い戻しがないうまま、十年間が過ぎますと、預け主としての権利がなくなりませぬから気を付けましょう。

郵便局では、郵便貯金の利用がないまま十年が過ぎますと、郵便貯金の利用をお知らせする通知書(催告書)を貯金の預け主に送ります。その後二か月が過ぎても郵便貯金の利用がない

通知書が届いたら、すぐに郵便局の窓口へご相談ください。十年前の残高が少なくとも、知らぬ間に予想外の利子がついて、かなりの金額になっていることもありませぬ。

郵便局で利子の記入や住所変更、印章変更の届け出などをすると、その時から十年間有効となります。

なお、住所変更があつてもその旨届けていないと、せっかく郵便局から通知書が發送されても着きませぬ。住所の変更があつたときは必ず届けておきませぬ。

妙な火加減や水加減は、古来刀工の秘伝とされてきました。ところで、焼きを入れるとき火が回り過ぎると、かえって切れ味が鈍くなるので、これを、「焼きが回る」と言います。同じ「焼く」でも「やきもちを焼く」の語源は、胸が焼けるた

め〃〃やきモチするから〃など諸説がありますが、やきもちはほどほどに焼くのが効果的なようです。いわゆる焼きを入れる鍛錬にしても、度が過ぎると焼きが回って鈍化傾向を生じますから、やはりほどほどに。